

## 特別支援教育だより⑧

特別支援教育コーディネーター

### <配慮を要する子に適した席>

子どもの特性に合わせて座席を配慮することも、支援の一つです。

<例>

**児童A**：落ち着きがない。気が散りやすい。個別に声かけが必要。

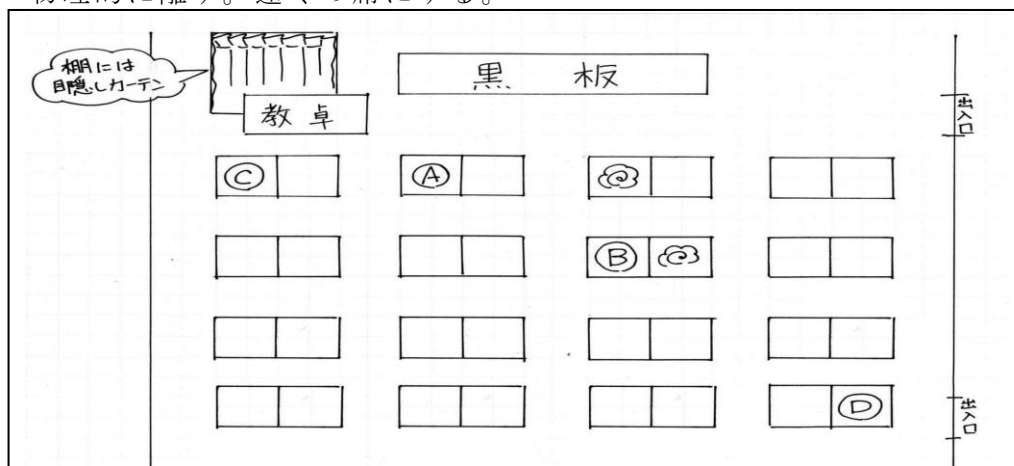
→他の子があまり視界に入らない最前列。廊下や窓の外に気を取られないように端は避ける。声をかけやすいように教師の近く。黒板周りに気になる物を置かない配慮（棚にカーテン）。

**児童B**：ぼーっとして聞いて聞き漏らしが多い。活動がわからなくなることが多い。

→教師が声かけをしやすい前の方。お手本となるような子を隣や前にする（最前列よりは2列目あたり）。

**児童C**：児童Dとトラブルになりやすい。相性が悪い。

→物理的に離す。遠くの席にする。



○隣にしたい子

- ・さりげなく手を貸してくれる子
- ・穏やかな子
- ・お手本になれる子

△隣は避けたい子

- ・世話をやきすぎる子
- ・神経質に注意する子（間違っていることが許せない子）

☆子どもは教師の関わり方を見ています。

教師がきつく接すると、他の子もきつく、何かと責めるようになります。

教師がさりげなく支援をしていると、自然と教師のやり方を真似る子が出てきます（優しい女の子に多い）。

支援を要する子への声かけ、接し方は、教師が良いモデルとなれるようにしましょう。

### <使いやすそうな文房具紹介>



定規の0の目盛りが端。  
三角定規は各角が色分けされている。  
分度器は右回り・左回りが色分けされている。

「くるんパス」  
持つところに回るキャップがついていて、不器用な子でも回しやすい。

